



## 代表作2点を市に寄贈

令和元年に83歳で亡くなった矢板市の書家、柿沼翠流さんの遺作2点が同市に寄贈され、市役所で贈呈式が行われた。

寄贈されたのは平成22年に制作された「今 生きてますか」(縦70センチ、横137センチ)、「一笑」(同)の2点で、いずれも柿沼さんの代表作。市長公室と生涯学習館1階ロビーに展示された。

市役所での贈呈式には、長男の正さん(55)と柿沼さんが主宰した書道研究会

「書泉会」の共同代表、理事長らが出席。正さんは

「矢板の皆さんに見ていただき、今の時代だからこそ、いろいろなことを考え、生きるためのお役に立てば、父も喜んでくれると思う」とあいさつ。斎藤淳一郎市長は「寄贈作品は数々の作品の中でも、代表作。混沌とした世情の中でご覧になる方がいろんなことを感じとってほしい」と話した。

正さんによると、寄贈作品2点は当初、代表作とし

て自宅で保存しようと考えていたが、「一番いい作品を出してほしい」という次男で書家の康二さん(52)のひと言で寄贈を決めたという。

柿沼さんは塩谷町生まれ。手島右卿らに師事し、昭和47年に独立書道展で特選受賞。教員をしながら書を通じていたが、46歳で書に専念。これまで毎日書道展の毎日賞など数々の賞を受賞。また、県書道連盟会長を務め、後進の育成や書道発展に心血を注いだ。県の第1回マロニエ文化賞に輝いたほか、塩谷町の栄誉賞も受賞した。

(伊沢利幸、写真も)